

I 事業の状況

〔1〕奨学事業

1.応募状況および選考結果

(1) 奨学生の選考、決定

2019年2月20日開催の選考委員会において、推薦を依頼した13大学からの奨学生候補者19名について、選考審査を行った。

その結果、一般奨学生14名と既に採用が決定している渡日前採用奨学生3名、計17名を選定、理事長が決定した。決定した17名の奨学生については、推薦のあった大学・高校に通知した。

なお、渡日前採用奨学生の中国からの採用については、選考委員会より委任を受けた選考副委員長が現地において、直接面接・選考を行ない、理事長が決定した。

(2) 2019年度奨学生

2019年度の奨学生は一般、P.B.Sに渡日前採用奨学生を加えて合計70名で、その内訳は、大学・大学院奨学生53名、渡日前採用奨学生16名、P.B.S奨学生1名である。

〔奨学生内訳〕

区 分		前年度 実績	新規 採用者	継続者	2019年度 実績	前年 対比
一般奨学生	学部・大学院	39	14	39	53	+14
P.B.S(Post Bachelors Scholarship) 奨学生		3	0	1	1	-2
渡日前採用奨学生		23	3	13	16	-7
計		65	17	53	70	+5

(3) 奨学金の支給

① 奨学金贈呈式

2019年6月8日奨学生への奨学金贈呈式を実施した。

② 奨学金の支給

本年継続の奨学生53名および新規奨学生17名に対し、月額18万円（高校生6万円）の奨学金を2019年4月～2020年3月まで12ヶ月間支給した。

また、中国からの渡日前採用奨学生名については10月～3月までの滞在費月額18万円を支給した。

なお、新規渡日前採用奨学生 3 名に対し、渡航支度金、大学入学金等の援助金としてそれぞれに 108 万円を支給した。

2. 学業および生活状況調査

2019 年 4 月、継続奨学生に成績証明書および研究（学業）報告書を提出させた。

また、4 月、5 月、10 月、11 月、3 月に奨学生と個別に面談し、勉学の状況、成果の現況および生活状況の報告を受けた。このうち 6 月、10 月は地方在住の奨学生についても面談を実施した。

3. 交流活動事業等

(1) 奨学生交流会

奨学生交流会を次の通り開催した。

第 1 回 2019 年 6 月 8 日 (奨学金贈呈式・交流会)

第 2 回 2019 年 8 月 5～7 日 (研修旅行)

第 3 回 2019 年 12 月 7 日 (交流会)

なお、2020 年 3 月 7 日開催予定であった卒業式・交流会については、新型コロナウイルスの影響で中止した。

(2) 社会科見学

2019 年 9 月 18 日 朝日新聞社見学 奨学生 26 名参加

(3) 研究発表会

2019 年 12 月 7 日 学士会館 発表者 7 名

(4) おせちの会

2020 年 1 月 6 日「クッキングスタジオおいしいのつくりかた」(浅草)

奨学生 33 名参加

(5) 奨学生交流誌の発行

奨学生間、奨学生と財団の交流に資するため、2019 年 5 月交流誌を発行した。

4. 奨学助成金額

合計 141,300,000 円

[2] 研究助成事業

1. 主要日程

- ①2019年 4月1日 2020年度募集開始
- ②2019年 6月14日 「奨励研究助成」受付締切り
- ③2019年 6月28日 「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」受付締切り
- ④2019年 8月29日 第1回選考委員会（書類審査）
- ⑤2019年 9月26日 第2回選考委員会（面接審査）
- ⑥2019年 10月9日 助成採択者理事会承認
- ⑦2019年 12月19日 第7回贈呈式、研究者育成助成研究発表会

なお、2020年3月3日開催予定の第5回若手研究者の集い、奨励研究助成研究発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期とした。

2. 応募状況

項目	研究者育成助成 〈ロッテ重光学術賞〉	奨励研究助成	合計
大学	国公立大学 7件 私立大学 6件 計 13件	国公立大学 108件 私立大学 36件 計 144件	157件
その他 研究機関	0件	6件	6件
計	13件	150件	163件

3. 採択者一覧 資料A参照（別添）

4. 助成金額（合計） 205,840,390円

5. 選考概要

①選考方法

従来通り「食と健康」に関連した幅広い分野からの申請があり当助成事業の選考委員9名全員で申請書全件の書面審査を行い、選考委員会にて活発な議論を交わしたうえ、最終候補者を決定した。なお、「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」においては、まず書面審査で2名を選考し、後日、面接審査を実施した。

②観点

「研究者育成助成〈ロッテ重光学術賞〉」については、申請者が将来自身の研究分野を切り拓き、同時に切り開いた研究分野を先導し、社会のために広く貢献していける能力を有する研究者かどうか、さらに、「食と健康」の分野でどのように将来を展望しようとしているのかに主眼をおいて審査を行った。

「奨励研究助成 A」および「奨励研究助成 B」は、将来、国際的に活躍する可能性を秘めた、優秀で志の高い若手研究者を対象としており、自然科学から人文・社会科学までの広域にわたる「食と健康」の分野において、研究上の独創性、チャレンジ性、萌芽性および将来性について審査を行った。

③選考結果

2019年8月29日の第1回選考委員会にて、「奨励研究助成 A」の助成対象候補者24名、「奨励研究助成 B」の助成対象候補者17名および「研究者育成助成」の面接候補者を選出、続いて9月26日の第2回選考委員会にて、「研究者育成助成」の助成対象候補者1名を面接審査にて選出した。その後、10月9日の理事会において正式に採択を決定した。

6. その他

第2回研究者育成助成 助成対象者の早川晃司氏が、2019年6月1日より岡山理科大学獣医学部講師として就任、また第3回同助成対象者の宮田真路氏が、2019年5月1日より東京農工大学農学部准教授として就任した。

第7回(2020年度)助成採択者

※所属機関・職位は2019年12月現在のものです。(五十音順・敬称略)

研究者育成助成(ロッセ重光学術賞)

●新規助成者

	氏名	所属機関・職位	研究課題	受入機関	育成支援教員
1	山口 裕嗣	名古屋大学環境医学研究所 ストレス受容・応答研究部門 神経系分野Ⅱ 特任助教	絶食や食品成分により誘導される 冬眠様低代謝状態の神経基盤の解明	名古屋大学 環境医学研究所	教授 山中 章弘

●継続助成者

	氏名	所属機関・職位	研究課題	受入機関	育成支援教員
1	田村 英紀	星薬科大学先端生命科学 研究センター 特任准教授	栄養と運動が織り成す賢い脳回路の 分子基盤の解明とその相乗効果に基 づく高次行動解析	星薬科大学先端生命 科学研究センター	教授 成田 年
2	野村 亘	京都大学大学院農学研究科 食品生物科学専攻 特任助教	栄養素による老化プロセス制御機構 の解明：健康寿命の延伸を目指して	京都大学大学院 農学研究科 食品生物科学専攻	准教授 後藤 剛
3	佐々木 伸雄	慶應義塾大学医学部消化器 内科 特任助教	腸管上皮幹細胞の制御機構における 味覚受容体の役割	慶應義塾大学医学部 消化器内科	教授 金井 隆典
4	伊達 公恵	お茶の水女子大学ヒューマン ライフイノベーション研究所 特任講師	食品成分による高血糖抑制機構の 解明：腸内機能性糖鎖の制御による 健康長寿	お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系	教授 相川 京子
5	應本 真	東京工業大学バイオ研究 基盤支援総合センター 特任講師	多様な味が生じる機構の分子基盤の 確立	東京工業大学 バイオ研究基盤支援 総合センター	准教授 廣田 順二
6	今 理紗子	星薬科大学生体分子薬理学 研究室 特任講師	腸内細菌と水輸送タンパク質の相互 作用解析；プロバイオティクスの個 別化を目指して	星薬科大学 生体分子薬理学研究室	教授 亀井 淳三
7	佐々木 崇	東京大学大学院農学生命科学 研究科 特任助教	骨格筋における摂食応答の分子基盤 解明と筋機能改善への応用	東京大学大学院 農学生命科学研究科	教授 佐藤 隆一郎

奨励研究助成(A)

	氏名	所属機関・職位	研究課題
1	秋田 祐介	埼玉工業大学大学院工学研究科 生命環境化学専攻 准教授	シクラメンのかほりに関わる生化学・分子生物学解析
2	大黒 亜美	広島大学大学院総合生命科学研究所 助教	アラキドン酸、及びDHAのエポキシ体が腸機能へ与える影響解析とその作用機序の解明
3	大塚 和香子	東北大学大学院理学研究科 助教	オキナワモズクブコイタンによる腸管内腸発酵生知菌の増殖促進作用の解明
4	金谷 高史	理化学研究所生命医科学研究センター 上級研究員	食物繊維が腸管免疫系を発達させるメカニズムの解明
5	成田 智子	九州大学大学院医学研究院附属 総合コホートセンター 助教	機能性食品成分の血中濃度と認知症及び生活習慣病発症との関係の検討
6	坂本 雅行	東京大学大学院医学系研究科 助教	食品香気成分によって誘起される成体脳新生ニューロンの機能解析
7	佐々木 俊介	早稲田大学アジア太平洋研究センター 助教	スラム街に居住する児童の健康改善！ 生態人類学調査に基づく給食の提供とレシピの開発
8	佐々木 拓哉	東京大学大学院薬学系研究科 助教	ビッグデータ解析による腸を中心とした多臓器連関の解明
9	杉本 幸子	広島大学大学院医系科学研究科(薬) 准教授	医食同源の観点から神農本草経収載生薬の生物モデル 線虫を用いた機能性評価
10	山中 恭恵	東北大学大学院歯学研究科 加齢歯科学分野 助教	口腔テラスチャー感受の加齢変化と咀嚼機能への影響
11	細村 菜奈枝	慶應義塾大学薬学部 医薬品開発薬理科学 助教	機能性に係るベネフィット情報の表示乖離解消に向けた 有効性の評価系確立に関する検討
12	田原 穂	早稲田大学理工学術院 准教授	時間栄養による健康寿命延伸効果の検討
13	田部 莉子	立命館大学産業社会学部 准教授	現代の子どもの食の困弊と「子ども・家族包括型発達支援システム」の開発に関する研究
14	梶野 陽幸	京都府立医科大学大学院医学研究科 細胞生理学 教授	酸味認識の神経基盤の解明
15	内藤 清佳	鹿児島大学共同獣医学部 准教授	匂いによる排便促進作用の生理的メカニズムの解明
16	濱田 有香	早稲田大学スポーツ科学研究科 日本学術振興会特別研究員PD	食後高血糖を防ぐ食べ方の検討
17	日原 大貴	東北大学大学院歯学研究科 口腔システム制御学分野 研究助教	非侵襲的脳機能イメージング法を用いた味の相互作用 受容機構と加齢に伴う変容の解明
18	船声 洋佑	大阪大学微生物病研究所 細胞制御分野 助教	マグネシウムによる健康増進メカニズムの解明
19	松居 翔	京都大学大学院農学研究科 食品生物科学専攻 栄養化学分野 助教	FGF21による飲酒欲求の制御機序の解明とその応用
20	丸山 広達	愛媛大学大学院農学研究科生命機能学専攻 准教授	ガム咀嚼時唾液で評価した咀嚼能と認知症・認知機能 低下との関連：前向きコホート研究
21	服月 佑哉	茨城大学農学部 助教	温暖地域における四季成り性イチゴの安定生産技術に 関する研究
22	矢嶋 潤彰	東京大学大学院工学系研究科 助教	最適な食事の学習に向けた消化器系フィードバック 情報のセンシング技術
23	陽川 颯	北見工業大学応用化学系 助教	ハッカ属植物の根の温度感知によるテルペン類代謝 調節機構の解明
24	渡部 綾子	農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 細菌・寄生虫研究領域 主任研究員	セリン取り込みにより変化するカンピロバクター・ ジェジュニ変型の機能解析

奨励研究助成(B)

	氏名	所属機関・職位	研究課題
1	王 寧	筑波大学生命環境科学研究科 生物圏資源科学専攻 助教	選択的スプライシングを介したトマト日持ち性関連遺伝子の発現制御機構解明
2	大西 康太	徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床食管理学分野 助教	近赤外蛍光イメージングを用いた <i>in vivo</i> オートファジー活性評価法の開発
3	落合 秋人	新潟大学自然科学系 (工学部工学科材料科学プログラム) 助教	米由来生理活性タンパク質のオーラルケアへの応用
4	川上 由香	静岡県立大学食品栄養科学部 栄養生命科学科 助教	砂糖の構造異性体が食後の尿酸代謝に及ぼす影響
5	小谷 仁司	鳥根大学医学部医学科 免疫学講座 講師	天然由来香気成分による免疫賦活作用の解析
6	小林 正樹	東京理科大学薬学部 生命創薬科学科 助教	カロリー制限模倣機構に基づく、肥満予防効果を有する食品成分スクリーニング系の提案
7	坂田 健一郎	北海道大学病院口腔内科 助教(病院助教)	味覚障害の臨床的研究 —味覚障害の体系的な治療の確立を目指して—
8	佐藤 瑠子	お茶の水女子大学基礎研究院 助教	大量調理過程における栄養素損失のシミュレーションと栄養価評価への応用に関する研究
9	白石 哲也	山形大学学術研究院(学士課程基盤教育機構) 准教授	赤生人の海産食物利用とその実態解明
10	高田 仁実	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科 助教	胎児期及び新生児期における胃組織成熟メカニズムの解析
11	高橋 将記	早稲田大学重点領域研究機構 研究院講師	糖尿病予防および腸内細菌叢改善に効果的な「おから」の発酵方法の探索
12	田川 亮真	東京理科大学薬学部 生命創薬科学科 助教	食品添加物トレハロースによる非アルコール性脂肪性肝疾患の予防に向けた研究
13	筒井 歩	信州大学学術研究院(農学系) 助教	ポリアミン関与型AGEsの分析方法の確立と食品中での同定
14	畑 有紀	名古屋大学大学院人文学研究科 博士研究員	『和歌食物本草』をめぐる江戸時代の食養生の様相
15	原田 一貴	東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻 助教	グルタミンによる小腸内分泌L細胞からのグルカゴン様ペプチド-1分泌促進機構の解明
16	三浦 亮介	東京理科大学基礎工学部 生物工学科 博士研究員	短鎖脂肪酸がIgE依存的マスト細胞活性化を抑制するメカニズムの解析
17	渡辺 孝康	日本大学歯学部 基礎自然科学分野(化学) 助教	人工知能を駆使した口腔細菌叢CRISPRによる歯周病発症予測の基盤構築

Ⅱ 処務の概要

1. 会議等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	付議事項	会議の結果
2019年5月22日 第37回	<ol style="list-style-type: none"> 「評議員会招集承認」の件 2018年度事業報告及び計算書類等承認の件 「内閣府への事業報告等に係る提出書類承認」の件 「奨学事業選考委員選任承認」の件 「規定改定承認」の件 	<p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p>
2019年6月8日 第38回	<ol style="list-style-type: none"> 「理事長選定承認」の件 「理事長報酬に関するみなし評議員会開催承認」の件 「議決権行使に関する承認」の件 代表理事・業務執行理事の職務遂行状況の報告 第8回評議員会の決議内容の報告 	<p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p>
2019年10月9日 第39回	<ol style="list-style-type: none"> 2020年度研究者育成助成<ロツテ重光 学術賞>助成対象者を別紙1のとおりとする。 2020年度奨励研究助成(A)助成対象者を別紙2のとおりとする。 2020年度奨励研究助成(B)助成対象者を別紙3のとおりとする。 	<p>全員一致で承認・可決</p> <p>全員一致で承認・可決</p> <p>全員一致で承認・可決</p>
2019年11月11日 第40回	<ol style="list-style-type: none"> 「決議の省略の方法による評議員会の招集」の件 「第一回臨時評議員会に提出する『監事の選任の件』監事候補者の承認」の件 	<p>全員一致で承認・可決</p> <p>全員一致で承認・可決</p>
2020年3月12日 第41回	<ol style="list-style-type: none"> 「2020年度事業計画・積立金取崩し・収支予算・資金調達および設備投資の見込みを記載した書類承認」の件 「2019年度特定資産取崩し承認」の件 「規程改定承認」の件 代表代表理事・業務執行理事の職務遂行状況の報告 2020年度奨学事業採用者の報告 	<p>全員一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p> <p>全会一致で承認・可決</p>

(2) 評議員会

開催年月日	付議事項	会議の結果
2019年6月8日 第8回	1. 「議事録署名人選出承認」の件 2. 「2018年度決算承認」の件 3. 2018年度事業報告 4. 2019年度事業計画および積立金取崩し・収支予算書・資金調達および設備投資の見込みを記載した書類承認報告	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決
2019年7月10日 第1回臨時	1. 「理事長の報酬等の額の決定」に関する件	全員一致で承認・可決
2019年12月1日 第2回臨時	1 「監事の専任」の件	全員一致で承認・可決

(3) 選考委員会

① 奨学事業

開催年月日	付議事項	会議の結果
2019年9月5日 第1回	1. 「議長及び議事録署名人選出」の件 2. 「2019年秋採用奨学生選考面接・審査」の件 3. 2019年度現況奨学生報告 4. 2019年度中国渡日前奨学生面接報告 5. 2020年度奨学生募集計画について 6. 2020年度韓国渡日前採用について 7. 今後のスケジュールについて	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決
2019年12月7日 第2回	1. 「議長及び議事録署名人選出」の件 2. 「2020年度延長奨学生選考面接・審査」の件 3. 韓国渡日前採用について 4. 今後のスケジュールについて	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決
2020年2月17日 第3回	1. 「議長及び議事録署名人選出」の件 2. 「2020年度奨学生選考面接・審査」の件 3. 直近及び来年度のスケジュールにつて 4. 来年度渡日前採用について 5. 3月度奨学金支給終了する奨学生の進路について	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決

②研究助成事業

開催年月日	付議事項	会議の結果
2019年8月29日 第1回	1. 「2020年度研究者育成助成 面接候補者決定」の件 2. 「2020年度奨励研究助成(A)助成対象候補者決定」の件 3. 「2019年度奨励研究助成(B)助成対象候補者決定」の件	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決
2019年9月26日 第2回	1. 「2020年度研究者育成助成対象候補者決定」の件	全会一致で承認・可決

Ⅲ 新型コロナウイルスによる事業等への影響

2020 年に入り新型コロナウイルスが猛威を振う中、財団の運営、事業も多大な影響を受けております。奨学事業では 2020 年 3 月 7 日に予定しておりました奨学金支給修了者の卒業式を兼ねた交流会が中止を余儀なくされ、研究助成事業では 3 月 2 日に予定していた若手研究者の集いが延期となりました。又、3 月 7 日に予定されていた理事会については、決議の省略の方式による手続きを行いました。

今後、新型コロナウイルスの与える社会的な影響を踏まえて財団の運営に当たり、柔軟な対応を行っていくことにしております。

事業報告に係る附属明細書

記載する事項無し

以上